

市内中央部 1

大淀川とその支流である年見川、柳河原川など多くの川が流れる市内中央部。湧水地が多く、古くから住みやすい環境であったと考えられ、多くの遺跡が残されています。室町時代には、現在の市名の由来ともなった「都城」も築られました。

①都城跡（都島町） 中世 柱 駐

北郷義久が、永和元年（1375）に築いたお城といわれています。「都島にあるお城」ということから「みやこのじょう」と呼ばれ、これが「都城」の地名の由来となったといわれています。現在は、都城歴史資料館が建てられ、都城跡の出土品を含め、市内の様々な歴史資料が展示されています。



②都城領主館跡（姫城町） 近世 柱 駐

元和元年（1615）の一国一城令によって都城が廃城になり、現在の明道小学校を中心としたあたりに館が建てられました。



③都城県庁跡（姫城町） 近代 柱 駐

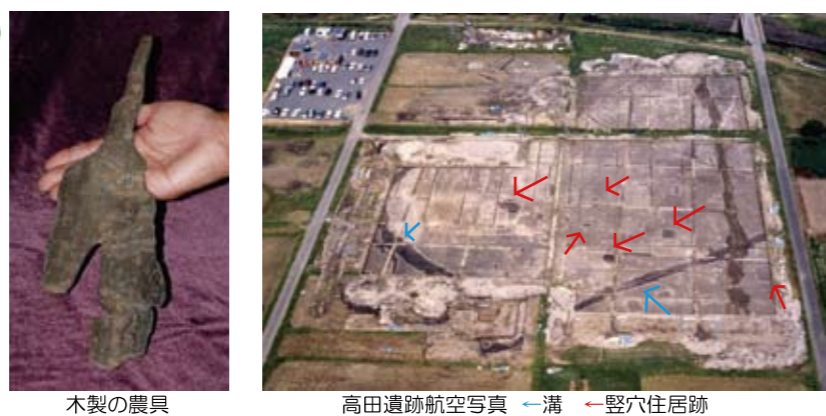
明治4年（1871）11月から明治6年（1873）1月まで、大淀川以南の日向国と大隅半島を県域とした都城県がありました。このとき、現在の市役所がある場所に県庁が置かれました。



④高田遺跡（早鈴町） 弥生 中世 柱 駐

溝で囲まれた弥生時代の集落跡です。竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの他に、当時の土器や石廬丁、木の農具（鋤など）が見つかりました。また、中世の水田跡も発見されています。

現在は大型店舗が建っています。



【そのほかの遺跡と史跡】

ニタ元遺跡：縄文時代～中世 / 中央東部遺跡群：縄文時代～古墳時代・近世・近代 / 宮田遺跡：弥生時代～中世（水田跡）
 後牟田遺跡：弥生時代・古代・中世 / 都城古墳（説明はP5）：古墳時代 / 姫木城跡・秋永屋敷跡・仁厳寺跡・龍峯寺跡：中世
 旧島津家米蔵屋敷門：近世 / 旧島津邸・招魂塚：近代（明治時代）



⑤上ノ園第2遺跡（早鈴町） 弥生 古墳 古代 中世

奈良時代から平安時代を中心とした遺跡で、溝で囲まれた集落跡が見つっています。遺跡からは、「秦」という文字が墨で書かれた器が見つっています。当時、文字は役人や身分の高い人など限られた人しか書くことができませんでした。



⑥小松原焼窯跡（小松原町） 近世

江戸時代に鹿児島から薩摩焼の陶工が移り住んで開いた焼き物の窯跡です。現在は公園となっています。

*江戸時代に鹿児島で作られた陶器を薩摩焼と呼ぶ。陶工は陶器を作る人のこと。



⑦正坂原遺跡（志比田町） 縄文 古代 中世 近世 馬

縄文時代（後期・晩期）と古代から中世を中心とした遺跡です。特に平安時代末から鎌倉時代は、建物や井戸、墓など、当時の集落の様子を知ることのできる重要な遺跡です。

現在は、小松原市民広場となっています。

